



- ・新図書館長のご挨拶 ————— P 1
- ・館内案内 ————— P 2
- ・お薦め図書の紹介 ————— P 3
- ・「図書館のちからプロジェクト」活動紹介 — P 4
- ・私の図書館活用法、蔵書交換展示会 — P 5
- ・新図書委員、新職員のご挨拶、Web登録のPR — P 6



図書館長就任のご挨拶



自然科学領域 教授 **境原 三津夫**

この4月より図書館長を務めることになった自然科学領域の境原三津夫です。本学図書館のこれまでの歩みを引き継ぎ、教育支援、研究支援、大学が保有する知的財産の保存および発信を使命とする大学図書館として、その機能の充実に尽力したいと考えています。

本学図書館は、新潟県立看護短期大学の図書館に始まり、大学の設立とともに大学図書館として位置付けられました。そして、近時の情報化社会の進展に合わせ少しずつその姿を変え、今日に至っています。本学図書館の紹介を兼ね、その活動について現状と今後の展望を述べたいと思います。

本学図書館は看護系の専門図書を中心に蔵書を集め、また看護学に関する資料の収集・保存を行っており、地域の看護学研究の拠点としての役割を果たしています。近郊の病院に勤務している看護師さんが、日々の看護実践に関する疑問を解決するため、勤務終了後に本学の図書館を訪れています。疑問点の解決はそのまま患者さんに還元されるため、看護系専門図書館としての責任は重大です。また、市民の方々も病院での医師の説明が難しい時などに本学図書館を利用して調べたりしています。患者さんの気持ちを考えることも看護学生にとって重要ですので、闘病記もたくさん揃えています。近時の医学の進歩は著しく、医学の進歩にともない看護学も変化しており、時代に遅れないよう蔵書や資料を整備し、地域の期待に応えていきたいと考えています。

研究者が教育・研究に必要な資料・文献を検索・収集することをサポートするレファレンス・サービスも本学図書館の重要な仕事です。本学では、資料や文献を検索するためのデータベースとして、国内の医学文献を集めた「医学中央雑誌Web」、医学・看護系論文の本文を提供している「メディカルオンライン」、世界の看護関係の文献検索に用いられる「CINAHL」などを備えています。教職員や学生は学内の端末から、学外者は図書館内の端末からこれらのデータベースにアクセスすることができます。検索方法がわからない場合は、図書館職員が相談にのってくれます。

また、本学における教育・研究の成果を社会に向けて発信し、将来に向けて保存するリポジトリ機能も担っています。本学のリポジトリは、平成27年より、国立情報学研究所のクラウド型機関リポジトリ環境提供サービス(JAIRO Cloud) を利用しています。これによりシステム・サーバー管理から解放され、コンテンツの登録に集中することができるようになりました。現在は、紀要、学術研究論文、看護研究交流センター報告書、自己点検評価報告書などを登録し、学外に積極的に情報を発信しています。本学のリポジトリは「にこナース(NICONURS; Niigata College of Nursing Repository)」の愛称で親しまれており、さらなるコンテンツの充実を目指し、大学をあげて取り組んでいます。

もうひとつ、近年、今までの知識注入型の講義形式の学習方法に加え、教員と学生、あるいは学生同士がディスカッションしながら、課題を見出し解決策を模索するアクティブ・ラーニングという学習方法が取り入れられるようになってきました。本学では、以前からこのような教育方法を導入していますが、グループで学習するスペースの確保が困難であり、学生は食堂やホールを学習の場として使用しています。アクティブ・ラーニングの重要性が増すにつれ、学習の場を図書館に確保し、図書館がもつアーカイブ機能やレファレンス機能を活用しながら学習するラーニング・コモンズの整備が求められるようになっていきます。種々の制約はありますが、本学の教育の質を高めるためにも、ラーニング・コモンズを早期に実現したいと考えています。

本学の図書館は、小規模でありながら時代の流れに遅れることなく成長してきました。図書館の管理・運営は図書委員会と図書館職員が中心となって行っています。利用する皆さんの満足が私たちのやりがいにつながります。これからも大いに利用し、本学の図書館を活用していただけたら幸いです。

館内案内



① おすすめの一冊

本学の教員がおすすめる図書や視聴覚資料を展示しています。紹介文は図書館HPに掲載しています。



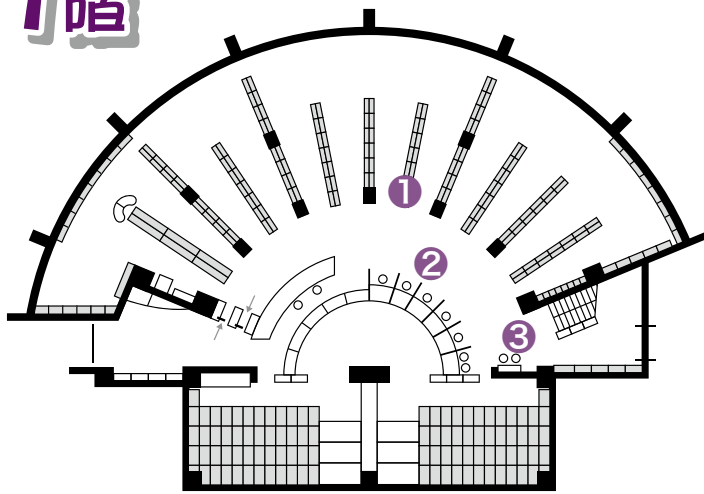
② 利用者用パソコン

蔵書検索や文献検索ができます。

- ・医学中央雑誌Web
- ・最新看護索引Web
- ・CINAHL Plus with Full Text
- ・メディカルオンライン

などのデータベースが使用できます。

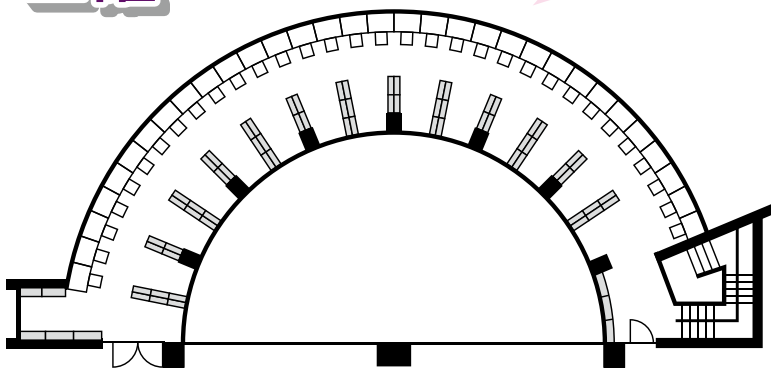
1階



1階には保健・医療・福祉などの専門書のほか、一般雑誌・小説などが並ぶコーナーがあります。



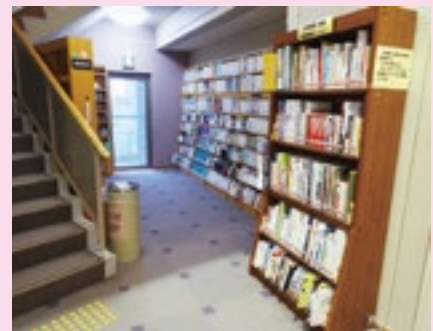
2階



2階には心理学・文学・教育学などの一般教養書が並んでいます。

すべての席にコンセントが配置されているので、パソコンを利用することが出来ます。

四季折々の景色を眺めながら、開放的な学習スペースを是非ご利用ください。



③ 災害看護・地震関係資料コーナー

当館では新潟県における災害看護資料の収集に努めています。階段下にコーナーがありますのでご利用ください。

お薦め図書を紹介

本学の図書をご紹介します

「こわいもの知らずの病理学講義」

自然科学領域 教授 堀江 正男



解剖学、生理学、病理学、生化学や分子生物学などの基礎医学は、医療従事者にとって正常なヒトの状態を知る上で必須だけでなく、患者さんの病態を理解するために重要な学問です。基礎医学は明らかに重要な学問なのですが、講義や教科書にはこれまで聞いたことのない単語や理論が頻出するため、敬遠しがちな学生さんも多いかもしれません。基礎医学を楽しく勉強する方法の一つとして、自分の知っている、あるいは興味を持っている病気について、その原因から病態まで調べてみるのが有用ではないかと思います。今回ご紹介する本は、数種の病気、特に“がん”について、原因から発症までの過程における細胞や組織、そしてその機能変化が詳しく説明されています。これに類する本はたくさんあるように思いますが、興味を持って一気に最後まで読み切れる本は意外と少ないものです。その点、本書はストーリーテリングが素晴らしいのが魅力です。魅せられて読み進めていくうちに、意図せずに知識が身につきました。と言うのは読者にとって最高の知識の詰め方ではないでしょうか。

前置きが長くなりました。私がお勧めするのは、大阪大学大学院医学系研究科病理学講座の中野徹先生が書かれた「こわいもの知らずの病理学講義」(2017年、晶文社)です。文庫サイズより一回り大きく、表装が黄色でとても目を引きまします。著者は、出血や浮腫(むくみ)などの誰でも経験する症状から、今や日本人の2人に1人が生涯に一度は罹患すると言われている“がん”の成り立ち、そしてその病態について、平易な言葉で解説しています。もともとこの本が出版されたのは、著者が職業柄、「近所のおっちゃんやおばちゃんから、病気についてたずねられることが良くあり、ごく普通の人にも、ある程度は正しい病気の知識を身につけてほしいなあ、誰かそんな本を書いてくれんかなあ(原文のまま)」と感じられたことに端を発しています。読みやすいストーリーは著者の意図を一般の人に漏れなく伝えるだろうと私は感じています。

本書は370ページほどからなりますが、前半は「細胞の損傷、適応や細胞死」「血行動態の異常、血栓症、ショック」について、そして後半は「がん」について記載されています。表題だけ見ると難しそうですが、どの項目についても、核心に入る前に話の裾野を大きく広げて敷居を低くし、読者が入りやすいように工夫

が凝らされています。また随所に話の脱線があるのですが、これがお寿司屋さんの“がり”のように心地よく、読者の心をリフレッシュして、再び濃厚な話へ戻れるようにしてくれています。後半の「がん」の項目では、がんの性質が非常に詳しく書かれており、改めてがんの恐ろしさを感じさせます。がんはがん細胞によって引き起こされますが、がん細胞とは一言で言えば、遺伝子の異常により細胞周期の回転に歯止めがかからなくなった結果、分裂増殖し続けるようになったものです。がん細胞の怖いところは、発生した部位(原発部位)の組織中に深く浸食していくこと(浸潤)、浸潤先で出会った血管やリンパ系を通して原発部位から離れたところに移動し(転移)、転移先で再び増殖することです。さらに恐ろしいことに、がん細胞は転移先で既存の血管を利用し、自分の生存に必要な自分専用の血管系を新生して酸素と栄養素を受け取ることができるのです。本書はこのようながんの恐ろしい性質を十分に理解させてくれる一方で、がん細胞を特異的に狙った免疫療法や分子標的薬などの最新のがん治療法についても記載しており、将来のがん治療への希望を感じさせてくれます。そして、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス感染予防としてのワクチン接種に伴う副作用についてや、がんに罹る可能性のある部位を“予防”として切除した女優アンジェリーナ・ジョリーさんの決断についてなど、思わず興味を惹かれる記載も多くあり、一度ならず二度、三度と読み返したくなります。興味を持たれた方は図書館で読んでみてください。読後には、どのくらい多くの基礎医学知識が入っているでしょうか、感想を楽しみにしています。



「こわいもの知らずの
病理学講義」

書誌情報

請求記号：491.6-N39

配架場所：棚6右側(1階)

「図書館のちからプロジェクト」活動紹介

図書委員（地域看護学 助教） 野口 裕子

図書委員会では、平成27年度より「図書館のちからプロジェクト」を実施しています。その目的は、1人でも多くの学生が書籍に触れ、対象（患者）理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献することです。具体的な活動として新入生歓迎イベントと学生ブックハンティングがあります。以下にこの2つの活動をご紹介します。



新入生歓迎会の様子



新入生歓迎会では、図書委員の石原先生(中央)・杉山先生(左)と書籍紹介しました

まず一つ目の新入生歓迎イベントですが、今年度も4月24日(水)に行い、8名の参加がありました。当日は、3人の看護系教員から、図書館に所蔵されている書籍をご紹介しました。私は、2冊を紹介しました。1冊目の「いのち輝くいい話」は、公益社団法人日本看護協会が2011年度より、看護職・一般の方々から看護にまつわるエピソードを募集し、毎年5月の表彰式で発表している“忘れられない看護エピソード”が書籍化されたものです。「看護する」側と「看護される」側からつづられたエピソードにふれることで、ご自身が大切にしている「看護」とは何かについて考えてほしいと思い、紹介しました。そして、この書籍は、看護学に関心を持って入学された学生に是非読んでほしいと思い、紹介しました。2冊目の本は、「気持ちの本」です。この本は、絵本です。著者である森田ゆり氏は、私が行政保健師をしてた時に、研修会の講師を依頼した方でもあります。当時、母子保健分野を担当して多くの子ども達やその養育者の方々とのつながりがありました。この書籍は、人の気持ちにはいろいろあること、その気持ちを大切にすることが描かれています。私は、看護学を志向する学生には、自分の気持ちを素直に感じて、その気持ちを大切にすることがとても大切だと考えて紹介しました。そして、歓迎イベントでは書籍の紹介だけでなくそれぞれの教員が看護職をめざしたきっかけや看護職として経験したことについても話をしました。

ここで参加学生の感想をいくつかご紹介します。

- 看護に関する本を読みたいと思っていましたが、自分ではなかなか探すことができなかったのですが、オススメの本を紹介してもらえてよかったです。このイベントで紹介された本をきっかけに、どんどんいろんな本を読みたいです。
- 看護に関する雑誌があることを知らなかった。私は助産師過程に進みたいので、雑誌を利用して勉強していきたい。
- 図書館は何となく来づらい印象があって足を運びにくかったけど、今回のイベントで沢山本を紹介していただいた中でおもしろそうだと感じた本がいくつもありました。また、先生方の経験談も聞くことができ、これからの看護学生としての生活が楽しみになってきました。これを機にたくさん図書館利用します！
- 本のことについてはもちろん、図書館のこと、また看護について知ることができたとてもいい機会でした。今回参加して、図書館を利用した学習をしていきたいと思えました。そして、これから看護について学んでいきたいという意欲が高まりました。

参加学生の感想から、書籍への関心の高まりと、図書館への積極的活用につながるきっかけを作ることができたことがわかりました。

次に、学生ブックハンティングです。学生自身が書店に赴き選んだ本を実際に図書館に置くために実施しています。昨年度は11月に実施しました。選んだ理由や是非読んでほしいメッセージを学生自らポップを作成して紹介しています。

今年度も、学生ブックハンティングを実施します。そして今後も、「図書館のちからプロジェクト」活動を行う予定にしております。どうぞよろしく申し上げます。



昨年度実施したブックハンティングで、学生が作成したPOPです

私の図書館活用法



博士前期課程

私は、現在博士前期課程の2年生です。入学当初は、仕事と勉強を両立できるか不安でしたが、幅広い年代の経験豊富な同期との出会いや先生方のご支援のもと、楽しく充実した毎日を送っています。入学後は、書籍や文献に触れる機会がととも増えました。ゼミの学習課題や看護研究に取り組むため、参考資料として図書館で書籍を借り、医中誌等の検索システムを活用しています。私は通学に片道2時間かかるため、本大学の図書館のホームページから、貸し出し延長、CiNiiやメディカルオンライン、PubMedなどの文献検索ができるので大変助かっています。

文献検索すると、本大学図書館の所蔵の有無が確認できます。所蔵されていない場合は、ネット上で文献複写依頼を行い、取り寄せていただきます（費用はだいたい数百円）。文献検索や文献依頼の方法など図書館の効率的な使い方は、図書館のスタッフの方が丁寧に教えてくださいます。

活気ある学内のなかで、多くの書籍に囲まれた明るく静寂な図書館の空間は、疑問や悩みを整理し、今後の方策を直接調べて考えるために適した場であり、集中して学習したい際にも活用しています。図書館は知識の宝庫であり、看護の専門書や専門以外のさまざまな書籍を手にとって読み、知らなかったことを知る喜びを感じることができます。幅広い知識を身につけ、学びを深めるためにも図書館の利用をおすすめします。



1年生

「なんて素敵なの。」オープンキャンパスで図書館に一目惚れした私。入学してからほぼ毎日図書館に通っています。やる事は3つ。まずは入り口で新聞を読み、次に1年次前期の難関、形態機能学の学びを深めるべく参考図書を借ります。最後に司書さんに挨拶をしたり外の景色を眺めて癒されます。大学にしては小さな図書館ですが、そのおかげで司書さんとの距離も近く、困った時には気軽に相談できます。そして、大きな窓からは関川沿いの緑と妙高連山が見えます。こんな贅沢な景色を見ながら、じっくりと調べ物ができます。もちろん、読書も楽しめます。

私のおすすめの作家は、重松清さんと瀬尾まいこさんです。内容はいじめや家庭問題など決して明るくはないのですが、登場人物の心情が丁寧に描かれていて、読後は色々なことを考えさせられます。この図書館にはまだ数冊しか入っていないので少しずつリクエストしようと思っています。月に1人3冊までリクエストできるので、色々な価値観の人が色々な本をリクエストしていくことで、より素敵な図書館になる事を期待しています。

蔵書交換 展示会

職員の力作！
展示にも注目して
ください

上越教育大学附属図書館との蔵書交換展示会を毎年約1ヶ月間行なっています。

互いの学生に図書を紹介し、相互交流の促進を図ることを目的として、100冊の蔵書を交換し展示します。

教育学のほか、上越教育大学附属図書館の司書が厳選した図書は看護大学にはない図書にたくさん触れられる機会です。

冊数無制限で学内の方は3週間、学外の方は2週間借りられます。開催時には図書館HP等でお知らせしますので、ぜひ図書館へ足を運んでください。



新図書委員ご挨拶

❀ 社会科学 准教授 渡辺 弘之
 学生のみなさんの知的好奇心探求のお手伝いできればと思います。
 よろしく願い申し上げます。

❀ 成人看護学 助教 石原 千晶
 4月から図書委員会のメンバーになりました。
 先日、久しぶりに本を読みましたが、読書の楽しさを再認識しました。学生の皆さんに本の魅力、図書館の魅力を伝えられように頑張ります。

❀ 母性・助産看護学 助教 杉山 泰子
 本学の図書館は、図書館職員の皆様、学生のみなさま、教職員が、輪になって作り上げていることを実感しています。
 学際的かつ親しみやすい図書館となるよう活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

新図書館職員

❀ 飯田 孝枝
 昨年10月からお世話になっております、飯田孝枝です。
 私にとって図書館は身近にあった大好きな場所なので、図書館で働ける喜びをかみしめて働いています。みなさん一人一人が図書館で“居場所”を見つけられるよう、努力してまいります。



[学内限定]

図書館Webサービスの 利用申請をすると こんな時に便利!

本の予約がしたいけど
図書館に行く時間がない!

本のリクエストが
したいけど、
どうやるの?

貸出期限が
今日までだった!
延長しなきゃ!

今何冊借りているのが
知りたい!

こんな機能があります

- 本の貸出延長
- 貸出予約
- 利用状況照会
- 文献複写取寄せ
- 購入希望リクエスト など

**図書館カウンターで申請書に記入するだけ
Webサービス利用申請、お待ちしております♪**

図書館ホームページから
自宅のパソコン、スマホでもできますよ